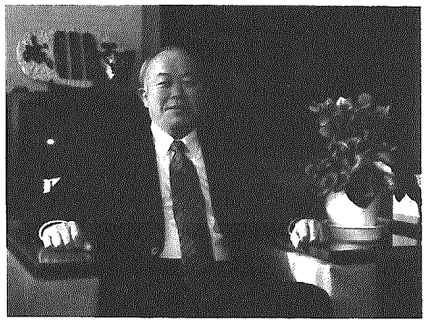
町長に新春インタビュー

あけましておめでとうございます



新年の抱負と今後の町づくりについてお聞きします

輝かしい新春を迎え、町民各位のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

さて、社会、経済、金融の不安定から、地方行財政も極めて厳しい状況に置かれておりますが、二十一世紀を間近に控え、みんなで力を合わせ、新しい時代にふさわしい町づくりを進めていかなければなりません。

特に、昨年策定いたしました第四次総合計画（緑豊かないきいきとした新しい横越）を町づくりの基本理念として、夢と希望の持てる町づくりを皆さんと共に進めて行きたいと思っております。常に政策課題を的確に把握し、町民の皆さんのニーズを行政に反映し、開かれた町政を進めて参ります。

福祉政策についてお聞きします

高齢化社会の到来を踏え、高齢者の生きがいと健康づくりが必要であります。介護保険制度創設は極めて重要な課題であり、円滑な導入、安定した運営を図って参りたいと思います。さらに、将来の広域的な視点に立って焼山地区に進めております福祉ゾーン計画では、既に民間の老人保健施設が開設、今年は特別養護老人ホームが完成する運びとなりますが、在宅福祉につきましても、介護支援、介護サービスを一層進めていかなければなりません。

また、当町においても年々少子化が進み、少子化による社会の活力低下が懸念されております。子どもたちが健やかに育っていける社会、子どもを安心して生み育てられる環境づくりを強力に進める必要があります。

教育政策についてお聞きします

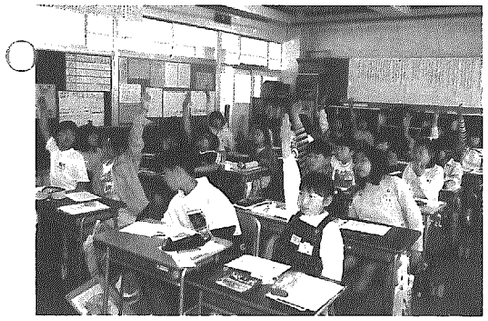
昨年文部省が発表しました二〇〇二年実施の新学習指導要領では、ゆとりをキーワードに学習内容の大胆な削減が行われるようです。ゆとりの中で子どもたちに自ら学び、考え、豊かな人間性や基本的なものを身につけさせることを目指しています。

しかし、学校も親も地域も、子どもたちに、我慢も反省も努力もさせてこそ、子どもたちに社会人として必要な学力と人格が保障されるのだと思います。新しい時代を克服し、そこに生きがいを見い出すような頼もしい子どもたちを育成することこそ、二十一世紀の求める教育ではないでしょうか。

教育こそ豊かな社会づくりの原点であります。子どもたちを一生懸命に応援します。

生活環境の整備についてお聞きします

私たちの大切な命や暮らしを守る安全で快適な生活環境をつくり出すことが行政の最大の課題であり、地域社会全体の責任でもあります。豊かな自然を守り、大切にし、生活と産業の調和のとれた町づくりです。それは申すまでもなく、ごみ処理、公共下水道、道路網の整備でありますが、特にダイオキシンなどの環境汚染問題には十分配慮し、町民の皆さんのご協力を頂きながら、ごみの分別収集を進め、資源のリサイクルを進めて参りたいと思います。



町の財政見通しについてお聞きします

国、地方自治体を取り巻く財政環境は、景気低迷による税財源の落ち込みにより、大変厳しい状況下にあります。反面、ここ十数年来、地域住民の要望に応えて、役場庁舎や総合体育館、ごみ処理場、消防署、福祉ゾーンなどの建設、公共下水道整備といった社会資本整備を積極的に進め、農業、商工業の振興を進めて参ったところであります。

現在の財政構造を見ると、財政硬直化の兆しが表れております。こうした状況を踏まえ、まず財源の安定確保と経常経費の削減を図り、より適正な財政運営に努めなければなりません。

町民のご協力とご理解を頂きまして、町の発展のために全力を尽くす所存であります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は卯年

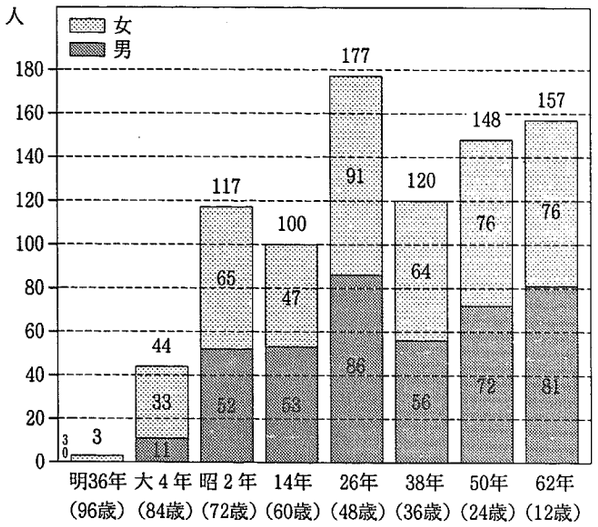
今年は卯年。十二支の四番目のうさぎ年です。卯は東の方角、また「卯の刻」といえば、午前六時ごろを指します。

うさぎは、ウサギ科の哺乳類です。うさぎというと耳が長く、目が赤く、毛は白、ピョンピョンと跳ねる動物を思い浮かべますが、これは私たちがよく見る日本白色種で、ほかにも多くの種類がいます。毛が白黒（または白茶）でパンダウサギとも呼ばれるダッチ、耳の下がったロップイヤー、耳の短いピーターラビットなどです。

うさぎが家畜化されたのは十二～十三世紀ごろといわれ、その後、ポルトガルの航海者が食糧の補給源として各地に広めたとされています。第一次世界大戦のころはヨーロッパ各地で食肉用、毛皮用に盛んに利用され、日本では日清、日露戦争のころから、日本白色種が大量に飼育されるようになりました。

町の卯年生まれの人口

（平成10年12月1日現在）



うさぎの話は、古くは「古事記」に発しています。うさぎが海の上に並んだワニザメをだまして因幡の国に渡ろうとします。

しかし、最後にワニザメの怒りを買ってしまい、皮をはぎ取られて苦しんでいるうさぎを大国主命が救うというお話です。

だれでも知っているうさぎの話といえば、「うさぎとカメ」です。うさぎとカメが向こうの山まで、どちらが先に行けるか競争します。うさぎは、カメがのろいのを見て途中で油断して昼寝をしてしまいます。その間にカメがゴールするというお話で、地道に努力すれば必ず成功するという教訓です。

もう一つ、日本の昔話で有名なのが「カチカチ山」です。

……タヌキにおばあさんを殺されてしまい、嘆き悲しむおじいさんに同情して、うさぎがあだ討ちをします。うさぎはタヌキをまき拾いに誘い、タヌキが背負ったままにカチカチと火打ち石で火をつけてやけどをさせます。さらに、タヌキを泥舟に乗せて川に沈めてしまいます。

うさぎの復讐という筋書きですが、知恵が勝利をもたらすということと、弱きを助け強きをくじく勧善懲悪の教えとされています。

うさぎは悪役だったり英雄だったり、だましたりだまされたりと、いろいろな役回りをこなしています。

平成九年度一般会計・特別会計決算を認定

会議録 12月定例会

平成九年度一般会計決算などを審議する横越町議会十二月定例会が、九日から十六日までの八日間の会期で開催されました。

初日には、一般質問で三名の議員が、「地方分権を踏まえた横越町の将来像」「学校給食米の国庫補助廃止対策」「二十一世紀型の教育政策」についてそれぞれ浅見町長に質問したほか、平成九年度一般会計や特別会計の決算が、決算審査特別委員会で審議され、また、平成十年度補正予算や町道路線の変更、横越町火災予防条例の一部改正、町職員の給与に関する条例の一部改正等の案件も原案どおり可決されました。

おもな議案

■平成十年度一般会計補正予算（第四号）

追加補正の主なものは、町道五一号線修景施設設計委託料・せせらぎ工事合わせて五三三万円、施設園芸産地育成事業補助金二三四万円、幼児医療費二二五万円、古阿賀地区湛水防除事業負担金一〇〇万円、さけ・ます増殖施設整備事業補助金八四万円、中学校校舎修繕料六五万円などです。

■平成九年度一般会計決算の認定（詳細は別掲4～5ページを参照）

■平成九年度国民健康保険をはじめ老人保健、下水道事業、家畜診療所特別会計決算をそれぞれ認定（詳細は広報2月号で掲載予定）

■平成十年度一般会計補正予算（第五号）

追加補正の主なものは、人事院勧告による給与改定に伴う職員の給与等の調整と、個人消費の喚起と地域経済の活性化を図るための地域振興券交付事業五、四〇〇万円です。